

## (2) 死亡

### ア 死亡数及び死亡率

死亡数は86,383人で、前年の83,597人より2,786人増加した。

死亡率は人口千人に対し12.2で、前年の11.8を0.4ポイント上回った。全国（13.3）と比較すると1.1ポイント下回っている。

死亡率の年次推移をみると、昭和35年7.9、昭和45年5.7、昭和55年4.5と低下し、以降4.5前後で推移していたが、昭和61年以降上昇傾向に転じた。（表-7、図-5）

表-7 死亡数及び死亡率の年次推移

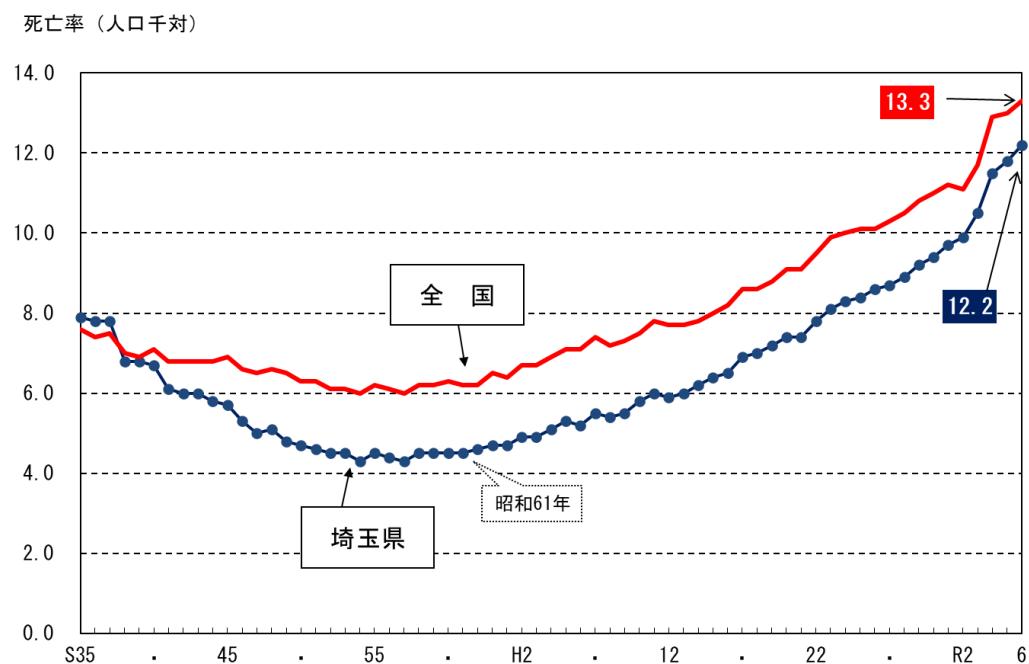
		S35	40	45	50	55	60	H2	7
数	埼玉県	19 089	20 117	21 836	22 688	24 129	26 417	31 222	36 799
	全 国	706 599	700 438	712 962	702 275	722 801	752 283	820 305	922 139
率	埼玉県	7.9	6.7	5.7	4.7	4.5	4.5	4.9	5.5
	全 国	7.6	7.1	6.9	6.3	6.2	6.3	6.7	7.4

		12	17	22	27	R2	4	5	6
数	埼玉県	40 486	48 095	55 487	62 566	70 758	82 211	83 597	86 383
	全 国	961 653	1 083 796	1 197 014	1 290 510	1 372 755	1 569 050	1 576 016	1 605 378
率	埼玉県	5.9	6.9	7.8	8.7	9.9	11.5	11.8	12.2
	全 国	7.7	8.6	9.5	10.3	11.1	12.9	13.0	13.3

注：率は人口千対である。

図-5 死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



## イ 都道府県別にみた死亡率

都道府県別にみると、本県の死亡率は昭和 63 年以降平成 13 年まで低率順で第 1 位、平成 14、15 年は沖縄県に次いで第 2 位、平成 16 年以降は沖縄県及び神奈川県に次いで第 3 位、平成 27 年～29 年は第 4 位、令和 2 年から第 6 位となっており、令和 6 年も第 6 位となっている。(表-8) \*表は 5 年毎に表記

表-8 都道府県別にみた死亡率

都道府県	S60		H2		7		12		17		
	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高率順	全 国	6.3	全 国	6.7	全 国	7.4	全 国	7.7	全 国	8.6	
	高 知	8.7	高 知	9.3	島 根	10.0	高 知	10.2	島 根	11.6	1
	鹿児 島	8.5	島 根	9.1	高 知	9.9	島 根	10.2	高 知	11.5	2
	島 根	8.3	鹿児 島	8.8	鹿 児 島	9.6	秋 田	10.1	秋 田	11.4	3
	和 歌 山	8.2	德 島	8.7	鳥 取	9.4	山 口	10.0	山 口	11.2	4
	德 島	8.0	和 歌 山	8.7	山 口	9.4	鳥 取	9.7	山 形	11.0	5
	山 形	7.8	鳥 取	8.5	和 歌 山	9.4	德 島	9.7	和 歌 山	10.9	6
	鳥 取	7.8	山 口	8.5	德 島	9.2	和 歌 山	9.6	鹿 児 島	10.9	7
	大 分	7.8	山 形	8.3	秋 田	9.0	山 形	9.6	德 島	10.7	8
	山 口	7.7	大 分	8.3	佐 賀	9.0	鹿 児 島	9.5	岩 手	10.6	9
低率順	佐 賀	7.6	佐 賀	8.3	愛 媛	9.0	大 分	9.3	愛 媛	10.6	10
	沖 縄	4.5	埼 玉	4.9	埼 玉	5.5	埼 玉	5.9	沖 縄	6.7	1
	埼 玉	4.5	神 奈 川	5.0	神 奈 川	5.7	神 奈 川	6.0	神 奈 川	6.8	2
	神 奈 川	4.6	千 葉	5.2	沖 縄	5.8	沖 縄	6.1	埼 玉	6.9	3
	千 葉	4.8	沖 縄	5.3	千 葉	6.0	千 葉	6.3	千 葉	7.4	4
順位	愛 知	5.1	愛 知	5.7	愛 知	6.3	愛 知	6.6	愛 知	7.4	5

都道府県	22		27		R2		5		6		
	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位	都道府県	率	順位
高順位	全 国	9.5	全 国	10.3	全 国	11.1	全 国	13.0	全 国	13.3	
	秋 田	13.2	秋 田	14.5	秋 田	16.1	秋 田	19.3	秋 田	19.6	1
	高 知	12.8	島 根	13.9	高 知	14.6	青 森	17.7	青 森	17.7	2
	島 根	12.8	高 知	13.8	青 森	14.5	高 知	17.3	高 知	17.6	3
	山 口	12.3	山 形	13.4	島 根	14.5	岩 手	17.0	岩 手	17.4	4
	山 形	12.1	青 森	13.1	山 形	14.5	山 形	16.7	山 口	16.9	5
	和 歌 山	12.1	德 島	13.1	岩 手	14.3	山 口	16.6	山 形	16.9	6
	鹿 児 島	11.9	和 歌 山	13.1	山 口	13.9	和 歌 山	16.4	和 歌 山	16.7	7
	德 島	11.9	山 口	13.1	德 島	13.9	德 島	16.4	德 島	16.7	8
	岩 手	11.9	鹿 児 島	13.0	和 歌 山	13.8	島 根	16.3	島 根	16.5	9
低順位	鳥 取	11.9	岩 手	12.9	愛 媛	13.6	愛 媚	15.9	愛 媚	16.2	10
	沖 縄	7.3	沖 縄	8.0	沖 縄	8.6	東 京	10.2	東 京	10.4	1
	神 奈 川	7.6	神 奈 川	8.4	東 京	9.0	沖 縄	10.5	沖 縄	10.8	2
	埼 玉	7.8	東 京	8.5	神 奈 川	9.4	滋 賀	10.9	滋 賀	11.4	3
	愛 知	8.1	埼 玉	8.7	滋 賀	9.4	神 奈 川	11.0	神 奈 川	11.4	4
順位	東 京	8.1	愛 知	8.8	愛 知	9.7	愛 知	11.2	愛 知	11.5	5
					埼 玉	9.9	埼 玉	11.8	埼 玉	12.2	6

注1：率は人口千対である。

注2：順位の算出には、小数点第2位以下を考慮している。

## ウ 死因

### (ア) 死因順位

令和6年の死亡数を死因順位別にみると、第1位は悪性新生物 21,104人（死亡総数の24.4%）、第2位は心疾患 12,035人（13.9%）、第3位は老衰 10,507人（12.2%）、第4位は肺炎 5,174人（6.0%）、第5位は脳血管疾患 5,108人（5.9%）となっている。

死亡率（人口10万対）を前年と比較すると、老衰（148.3）が17.0ポイント、肺炎（73.0）が3.6ポイント、悪性新生物（298.0）が2.6ポイント、誤嚥性肺炎（40.0）が2.6ポイント、脳血管疾患（72.1）が1.9ポイント、間質性肺疾患（20.7）が1.1ポイント、不慮の事故（27.1）が0.7ポイント上昇した。

一方、心疾患（169.9）が7.8ポイント、新型コロナウイルス感染症（28.5）が1.4ポイント、腎不全（20.0）が1.0ポイント低下した。

（表－9）

表－9 主な死因別死亡数及び死亡率（対前年比較）

埼玉県

死因	令和6年			令和5年			令和5年との比較		
	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合	数	率(人口10万対)	死亡総数に占める割合
総 数	86 383	1 219.6	100.0	83 597	1 175.3	100.0	2 786	44.3	
悪性新生物	21 104	298.0	24.4	21 009	295.4	25.1	95	2.6	△ 0.7
心疾患	12 035	169.9	13.9	12 641	177.7	15.1	△ 606	△ 7.8	△ 1.2
老衰	10 507	148.3	12.2	9 338	131.3	11.2	1 169	17.0	1.0
肺炎	5 174	73.0	6.0	4 933	69.4	5.9	241	3.6	0.1
脳血管疾患	5 108	72.1	5.9	4 992	70.2	6.0	116	1.9	△ 0.1
誤嚥性肺炎	2 831	40.0	3.3	2 662	37.4	3.2	169	2.6	0.1
新型コロナウイルス感染症	2 018	28.5	2.3	2 128	29.9	2.5	△ 110	△ 1.4	△ 0.2
不慮の事故	1 918	27.1	2.2	1 881	26.4	2.3	37	0.7	△ 0.1
間質性肺疾患	1 469	20.7	1.7	1 396	19.6	1.7	73	1.1	－
腎不全	1 416	20.0	1.6	1 495	21.0	1.8	△ 79	△ 1.0	△ 0.2
小 計	63 580	897.6	73.6	62 475	878.3	74.7	1 105	19.3	△ 1.1
その他の	22 803	321.9	26.4	21 122	296.9	25.3	1 681	25.0	1.1

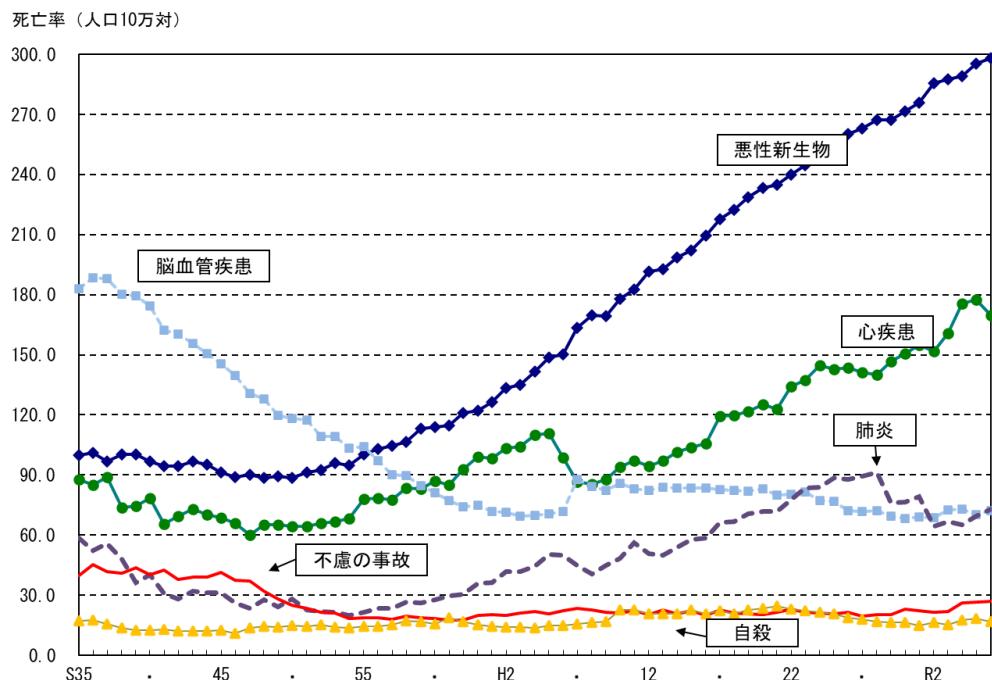
死因別に死亡率（人口10万対）の年次推移をみると、悪性新生物は昭和55年以降概ね上昇が続き、平成15年には200.0を超える、令和6年は298.0となった。また、死因順位は、昭和56年以降第1位となり、令和6年の死亡総数に占める割合は24.4%となっている。

心疾患は、昭和60年に脳血管疾患にかわり第2位となり、その後も緩やかな上昇を続けており、平成14年から100.0を越えている。令和6年の死亡総数に占める割合は13.9%となっている。

脳血管疾患は昭和36年をピークに低下し、昭和56年には悪性新生物にかわり第2位に、さらに昭和60年には心疾患にかわり第3位となり、その後も低下傾向にある。平成23年には肺炎にかわり第4位となり、令和5年からは第5位となり、令和6年の死亡総数に占める割合は5.9%となっている。（表－9、図－6）

なお、平成6、7年の心疾患及び平成7年の脳血管疾患の著しい変動は、死亡傾向が急激に変化したものではなく、死因分類（ICD-10）及び死亡診断書の改正によるものと考えられる（図－6の「注」を参照）。

図－6 主要死因別死亡率の年次推移（埼玉県）



注：死因分類(ICD-10)及び死亡診断書の改正による影響

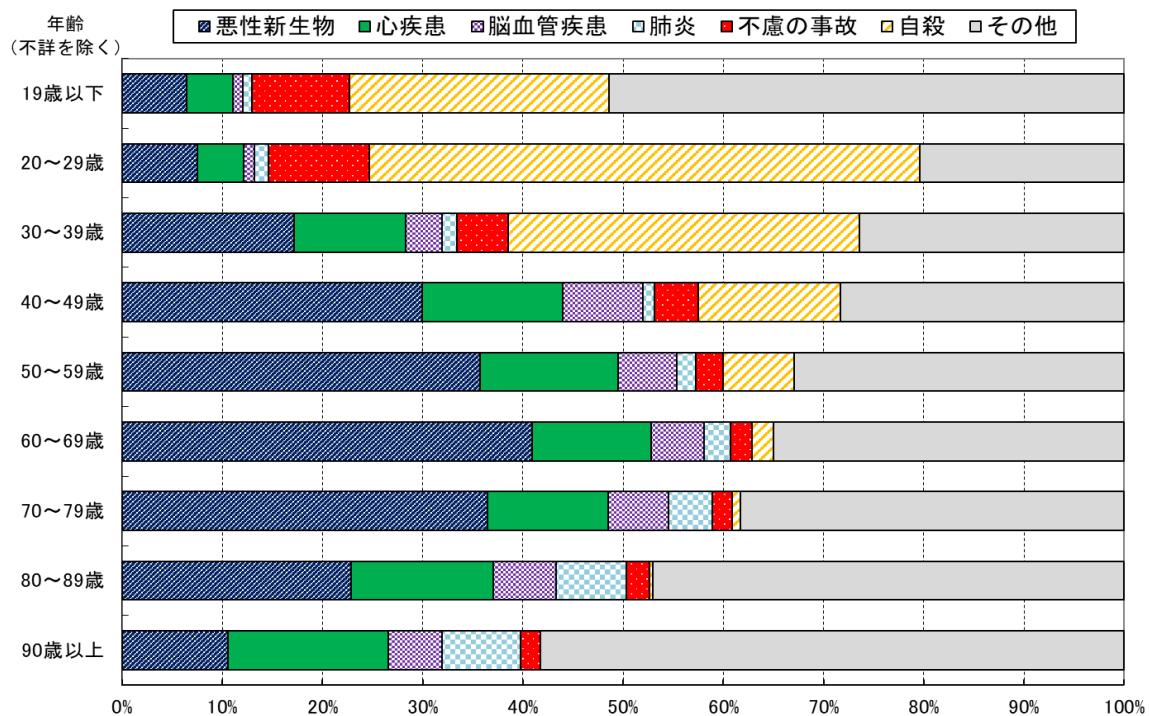
心疾患の平成6年から3年間は、大きく前年を下回っている。この低下は、平成7年1月施行の新しい死亡診断書（死体検査書）における注意書き「死亡の原因欄には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」の影響が考えられる。

脳血管疾患は、平成7年は前年を大きく上回った。これは、死因分類の改正で、肺炎に影響を与えた疾患として脳出血を死亡原因とするようになった影響が考えられる。なお、逆に肺炎は減少している。

平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、平成29年1月適用の死因分類による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

年齢階級別に主要死因別割合をみると、30歳代以下では自殺、40～80歳代では悪性新生物、90歳以上では心疾患の割合が最も高くなっている。（図－7）

図－7 年齢階級別にみた主要死因別割合（埼玉県）



### (イ) 悪性新生物（がん）

悪性新生物による死亡数は21,104人で、死亡総数の24.4%を占めており、全死亡者のおよそ4人に1人は悪性新生物で死亡したことになる。

年齢階級別にみると、80～89歳が7,807人で最も多く、次いで70～79歳が6,799人、60～69歳が2,482人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合をみると、60～69歳が40.9%で最も多く、次いで70～79歳が36.4%、50～59歳が35.8%となっている。（表-10）

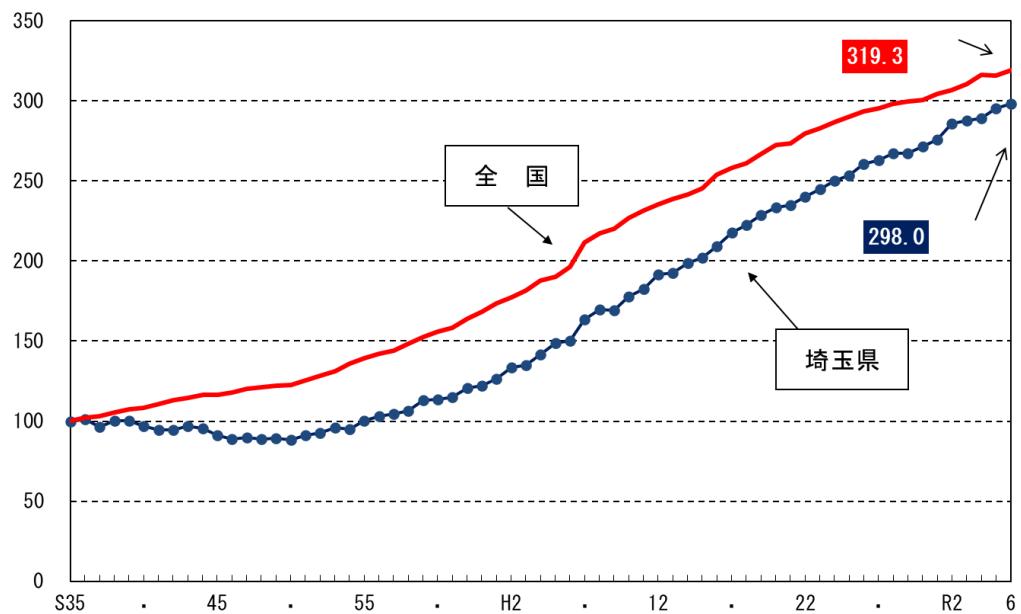
死亡率は人口10万人に対し298.0で、前年より2.6ポイント上昇した。全国は前年より3.7ポイント上昇し319.3である。（図-8）

表-10 悪性新生物による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳 以下	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90歳 以上	不詳
死亡総数	86 383	216	280	413	1 164	3 453	6 066	18 655	34 182	21 954	-
悪性新生物による死亡数	21 104	14	21	71	349	1 235	2 482	6 799	7 807	2 326	-
(各年齢階級別割合)	100.0%	0.1%	0.1%	0.3%	1.7%	5.9%	11.8%	32.2%	37.0%	11.0%	-
死亡総数に占める割合	24.4%	6.5%	7.5%	17.2%	30.0%	35.8%	40.9%	36.4%	22.8%	10.6%	

図-8 悪性新生物による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

死亡率（人口10万対）



部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が4,016人（19.0%）で最も多く、平成14年以降第1位となっている。また、平成28年に「大腸」が初めて「胃」を上回り第2位となり、令和6年も3,112人（14.7%）となっている。続いて「すい臓」が2,130人（10.1%）、「胃」が2,116人（10.0%）である。（図-9、表-11）

図-9 悪性新生物の部位別死亡割合の推移（埼玉県）

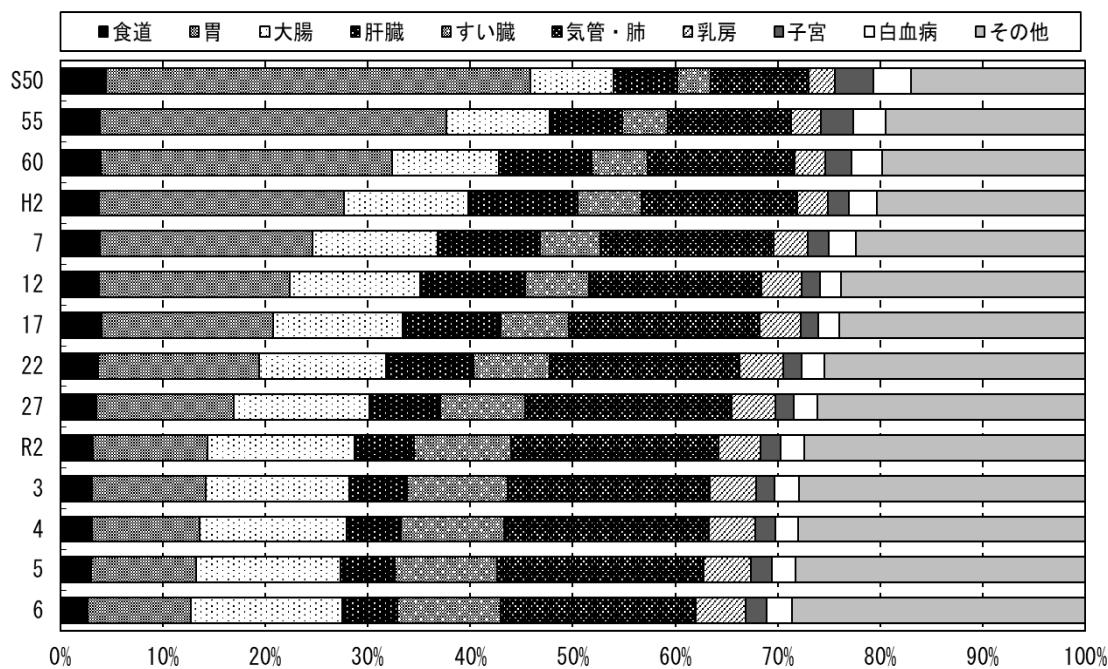


表-11 悪性新生物部位別死亡数及び割合の年次推移（埼玉県）

	S35	40	45	50	55	60	H2	7	12	17	22	27	2	4	5	6
総数	2 426	2 914	3 508	4 265	5 404	6 665	8 518	10 942	13 163	15 190	17 058	18 823	20 463	20 635	21 009	21 104
食道	120	142	183	192	207	264	321	420	500	614	635	662	648	634	638	571
胃	1 272	1 393	1 535	1 763	1 830	1 891	2 036	2 268	2 450	2 534	2 677	2 520	2 290	2 170	2 147	2 116
大腸	...	...	...	346	542	694	1 031	1 344	1 670	1 929	2 105	2 494	2 940	2 955	2 951	3 112
（結腸）	...	...	...	178	290	410	664	878	1 101	1 283	1 364	1 694	2 017	2 056	2 009	2 180
（直腸）	63	106	130	168	252	284	367	466	569	646	741	800	923	899	942	932
肝臓	229	222	249	266	383	604	912	1 088	1 344	1 443	1 457	1 294	1 181	1 106	1 126	1 137
すい臓	42	66	106	139	240	366	532	647	825	1 019	1 269	1 567	1 937	2 074	2 097	2 130
気管・気管支及び肺	95	174	281	407	652	958	1 292	1 846	2 215	2 829	3 163	3 788	4 136	4 125	4 230	4 016
乳房	40	38	77	110	158	199	253	362	511	607	726	806	850	921	967	1 024
子宮	138	159	139	160	170	166	176	228	236	261	305	331	403	414	425	444
白血病	58	84	98	158	169	200	230	287	276	302	376	435	475	463	481	521
その他	369	530	710	724	1 053	1 323	1 735	2 452	3 136	3 652	4 345	4 926	5 603	5 773	5 947	6 033
	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%	%
総数	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
食道	4.9	4.9	5.2	4.5	3.8	4.0	3.8	3.8	4.0	3.7	3.5	3.2	3.1	3.0	2.7	
胃	52.4	47.8	43.8	41.3	33.9	28.4	23.9	20.7	18.6	16.7	15.7	13.4	11.2	10.5	10.2	10.0
大腸	...	...	...	8.1	10.0	10.4	12.1	12.3	12.7	12.7	12.3	13.2	14.4	14.3	14.0	14.7
（結腸）	...	...	...	4.2	5.4	6.2	7.8	8.0	8.4	8.4	8.0	9.0	9.9	10.0	9.6	10.3
（直腸）	2.6	3.6	3.7	3.9	4.7	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.5	4.4	4.5	4.4
肝臓	9.4	7.6	7.1	6.2	7.1	9.1	10.7	9.9	10.2	9.5	8.5	6.9	5.8	5.4	5.4	5.4
すい臓	1.7	2.3	3.0	3.3	4.4	5.5	6.2	5.9	6.3	6.7	7.4	8.3	9.5	10.1	10.0	10.1
気管・気管支及び肺	3.9	6.0	8.0	9.5	12.1	14.4	15.2	16.9	16.8	18.6	18.5	20.1	20.2	20.0	20.1	19.0
乳房	1.6	1.3	2.2	2.6	2.9	3.0	3.0	3.3	3.9	4.0	4.3	4.3	4.2	4.5	4.6	4.9
子宮	5.7	5.5	4.0	3.8	3.1	2.5	2.1	2.1	1.8	1.7	1.8	1.8	2.0	2.0	2.0	2.1
白血病	2.4	2.9	2.8	3.7	3.1	3.0	2.7	2.6	2.1	2.0	2.2	2.3	2.3	2.2	2.3	2.5
その他	15.2	18.2	20.2	17.0	19.5	19.8	20.4	22.4	23.8	24.0	25.5	26.2	27.4	28.0	28.3	28.6

## (ウ) 心疾患

心疾患による死亡数は12,035人で、死亡総数の13.9%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が4,848人で最も多く、次いで90歳以上が3,505人、70～79歳が2,255人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、90歳以上が16.0%で最も多く、次いで80～89歳が14.2%、40～49歳が14.0%の順となっている。（表-12）

死亡率（人口10万対）は平成7年1月に死因分類及び死亡診断書の改正が行われた影響で、平成7年に一度大幅な低下を見せ、その後は上昇傾向にある。

令和6年は前年より7.8ポイント低下し169.9であった。全国は前年より2.5ポイント低下し188.2である。（図-10）

表-12 心疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳以下	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80～89歳	90歳以上	不詳
死亡総数	86 383	216	280	413	1 164	3 453	6 066	18 655	34 182	21 954	-
心疾患による死亡数	12 035	10	13	46	163	473	722	2 255	4 848	3 505	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.1%	0.1%	0.4%	1.4%	3.9%	6.0%	18.7%	40.3%	29.1%	-
死亡総数に占める割合	13.9%	4.6%	4.6%	11.1%	14.0%	13.7%	11.9%	12.1%	14.2%	16.0%	-

図-10 心疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）



## (エ) 脳血管疾患

脳血管疾患による死亡数は5,108人で、死亡総数の5.9%を占めている。

年齢階級別にみると、80～89歳が2,164人で最も多く、次いで90歳以上が1,184人、70～79歳が1,125人の順となっている。

また、各年齢階級の死亡総数に占める割合は、40～49歳が8.0%で最も多く、次いで80～89歳が6.3%、70～79歳が6.0%の順となっている。（表－14）

死亡率（人口10万対）は総じて低下傾向で、令和6年は前年より1.9ポイント上昇し72.1であった。全国は前年より0.8ポイント低下し85.5である。（図－12）

表－14 脳血管疾患による死亡数及び割合（年齢階級別）

	総数	19歳 以下	20～ 29歳	30～ 39歳	40～ 49歳	50～ 59歳	60～ 69歳	70～ 79歳	80～ 89歳	90歳 以上	不詳
死亡総数	86 383	216	280	413	1 164	3 453	6 066	18 655	34 182	21 954	-
脳血管疾患による死亡数	5 108	2	3	15	93	203	319	1 125	2 164	1 184	-
（各年齢階級別割合）	100.0%	0.0%	0.1%	0.3%	1.8%	4.0%	6.2%	22.0%	42.4%	23.2%	-
死亡総数に占める割合	5.9%	0.9%	1.1%	3.6%	8.0%	5.9%	5.3%	6.0%	6.3%	5.4%	-

図－12 脳血管疾患による死亡率の年次推移（埼玉県・全国）

